

氏名	柴 田 浩 一
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 158 号
学位授与の日付	昭和41年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	肝疾患における線維素溶解現象に関する研究 第1編 慢性肝疾患の線溶現象についての検討 第2編 慢性肝疾患の臨床経過と線溶素因子間の動的検討
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平木 潔 教授 三上 芳雄

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

慢性肝疾患，とくに慢性肝炎，前硬変症および肝硬変症の線維素溶解現象（線溶現象）を検討した結果，単に線溶系の個々の因子と臨床像との関連性を求めるときは，予想外の誤りを冒す危険があり，各種測定因子を総合して判断し，常に生体内の Homeostasis を考慮に入れることが重要であることを指摘した。その際，測定法別では，Plasma Clot Lysis およびEuglobulin Clot Lysis は出血性素質と，Plasma Clot Lysis は肝機能障害度とそれぞれ関連性をよく示した。

慢性肝疾患の個々の症例について線溶系の動態を経過を追って観察すると，線溶酵素活性値が見掛上正常範囲内でも，線溶各因子間の動的平衡が破綻している場合がみられ，また，線溶系諸因子の増減には，互いに時相のずれが存在することが観察された。

## 論文審査の結果の要旨

柴田浩一提出の「肝疾患における線維素溶解現象に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

慢性肝疾患，とくに慢性肝炎，前硬変および肝硬変症例について線維素溶解現象を従来報告された各種の測定法を用いて検討すると共に，著者の考案になる Plasmin solution+Plasma なる方法を加えて検討した結果，単に線維素溶解系の個々の臨床像を求めることは危険で，むしろ各種測定因子を総合して判断することが必要で測定法別では Plasma clot lysis および Euglobulin clot lysis は出血性素質と，Plasma clot lysis は肝機能障害度とそれぞれ関連性があることを認めた。また経過を追っての観察では線維素溶解酵素活性値が見掛け上正常範囲内でも，その反応系各因子間には動的平衡の破綻がみられる場合があることなど，新知見をえている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。